

【研究会報告】

ブリティッシュ・スクール・イン 東京 (BST) における 国際感覚と異文化理解

ポール・タフ

デイヴィッド・ジェイムス

(ブリティッシュ・スクール・イン東京/学校長) (ブリティッシュ・スクール・イン東京/副学校長)

ブリティッシュ・スクール・イン・東京 (以下、「BST」と記す) では、国際感覚を、異なる文化や視点を理解する能力として定義している。「国際感覚がある」とは、異なる文化的背景を持つ人々と効果的かつ適切にコミュニケーションをとり、互いに関わりを持つことをいう。BST では、国際感覚を身につける上で多文化理解が非常に重要な要素であると考えている。

これらの概念は、ガイディング・ステートメント (ミッション、ビジョン、バリュー)、教育カリキュラム、課外活動プログラム、教育的アプローチ、言語発達のためのアプローチ、外部とのパートナーシップ など、BST の様々な理念と実践的なアプローチに反映されている。

歴史と背景

BST は、1989年の創立以来、地域社会とともに成長し、未就学児から中高生までの約1000名強の生徒と200人以上の教職員を擁するアジア有数の英国系インターナショナルスクールとして発展してきた。卒業生は、世界の一流大学に進学している。

また、コンセプトベースドラーニング、レッジョ・エミリア教育、探究型学習などの要素を、年齢に合わせて戦略的に活用することで、教育学の先進的なアプローチを確立している。

語学、芸術、スポーツ、野外学習などにも積極的に取り組んでおり、教科学習だけでないホリスティックアプローチを特徴としている。

60カ国以上の生徒や教職員からなるコミュニティの多様性はBSTの強みであり、生徒の異文化対応能力を育んでいる。

ガイディング・ステートメント——ミッション、ビジョン、バリュー

BSTのガイディング・ステートメントは、学校の活動を方向づけるとともに、教育理念を形作っている。

BSTは、現代英国のアイデンティティと明確な世界観を持ち、インクルーシブかつホリスティックな、英語による教育を提供することを目指している。生徒の無限の可能性と生涯に亘って学び続ける姿勢を育み、誠実さを大切にした教育を通して、生徒が社会における責任を認識し貢献することを希求している。

BSTのコアバリューは、国際感覚と地球市民としてのコミットメントを反映しており、生徒、家族、卒業生、教職員のガイドとして、BSTコミュニティの行動の指針となっている。

- 自己ベストを目指します。
- 誠実であり人にやさしさ、思いやり、敬意を表します。
- 強い好奇心を持ち、物事を創造的、革新的に考えます。
- 多様性を受け入れ個性を尊重します。
- 国際的視野を持ち文化の違いに敬意を払います。
- 社会的及び環境的問題に対する意識と責任を持ちます。

BSTは、包括性、卓越性、創造性、革新性のある文化を醸成することを目指し、生徒が自らリスクを負い、批判的に考え、情熱をもって探求することを応援している。グローバルな視野を広げ、責任感を持ち、倫理的に世界に貢献したいと願う、責任感、倫理観、思いやりのある人材の育成に取り組んでいる。

カリキュラムの枠組み

英国のナショナル・カリキュラムが、BSTのカリキュラムのフレームワークではあるが、BSTは英国の公立校ではないため、日本特有の内容やコミュニティの背景も取り入れている。学校独自のカリキュラムを開発したり、生徒の学習や文化的な経験を反映して調整することが、教育の質の向上をもたらしている。

BSTでは、英語の教材の文章、美術で学ぶアーティスト、音楽で学ぶ楽曲や音楽家を選択する際にも工夫し、生徒が日々の生活の中で文化的な観点を深められるようにしている。異なる視点を理解して考える能力の構築には、断片的な文化やアイデンティティの知識を超えた深い探求が不可欠であり、教員は、自分や他者の異文化体験を振り返る場を設けるなど、生徒の考えるきっかけづくりに努めている。

課外活動プログラム

課外活動やクラブでは、生徒がグローバルな視野を持ち、異なる文化や視点を探求し、日本への理解を深め、世界の人々や社会、環境との相互関連性を認識できるようになることを目的としている。模擬国連、サステナビリティ、料理、折り紙、書道、哲学など、さまざまな活動がある。

アウトドアプログラムでは、日本の自然の体験・理解のほか、科学や地理の知識を生かし、地形を楽しみながらハイキングをし、固有の植物や自然の植生について学ぶものもある。

子供たちがグローバルに活躍できる人材になるためには、社会にプラスの影響を与える行動を通じて、地域社会や国際社会の形成に貢献できるようになることが必要である。一例だが、過去、UWS (United World Schools) との提携で、ネパールとカンボジアの学校を訪問した。将来的には、ネパールやカンボジアのパートナー校の子供たちにBSTの生徒が教える独自のオンラインカリキュラムを、UWS等と協力し提供することが目標である。

教育的アプローチとBST ランナープロフィール (学習者像)

BSTの理念と教育的アプローチの中核をなすのが、BST ランナープロフィール (学習者像) で、生涯を通じて高い成果を維持できる学習者を生み出す可能性の高い7つの特性を示すものである。この学習者像によって、生徒一人の潜在能力と、目的と情熱に基づいた強い自己意識を育てている。

教員は、学習者像を授業計画、言語学習の中に溶け込ませるべく、どのようにこれらの特性を伸ばすかを明確に計画している。また、学年末に、自分たちの実践が生徒の特性を伸ばすのどの役立ったかを振り返り、評価している。

言語発達と文化認識

BSTでは、他言語の習得が、異なる文化的視点の考察を深め、探求し、国際感覚を身につけるのに役立つと考えていることから、全生徒が新しい言語を学んでいる。

東京にあるインターナショナルスクールとして、日本語を学ぶ機会を充実させ、日本の文化体験を活用している。特に熱心な生徒には複数の言語を学ぶ機会を与え、同様に、母語を維持・向上させることも重要視している。未就学児は全員同じ内容で、Y1からは母国語、外国語に分けて日本語を学ぶほか、Y4からはフランス語を選択できるようにするなど、年齢に応じたカリキュラムとしている。また、生徒が地域の人にインタビューするなど、地域社会の中で実際に言語を使用し、身近で話す、聞く機会を最大限に活用している。

教育パートナーシップ

BSTはまた、他校との提携を通じて、異文化理解を促進している。昭和女子大学、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校と、相互協力的なパートナーシップを結んでいるほか、渋谷教育学園とも提携し、生徒間の交流を深めている。

また、BSTは、国際性、協調性、教育の卓越性を促進するため、複数の国際団体に加盟し、積極的にその機会を利用している。

CISは、その厳格な基準を満たしたインターナショナルスクールにメンバーシップと認定を与える世界的な団体で、認定プロセスでは、カリキュラム、生徒の学習、異文化理解における学校のパフォーマンスが総合的に評価される。また、国際感覚を含むさまざまな分野で、教職員のための広範な専門能力開発プログラムが提供されている。

COBISは、全世界の450以上の英国系インターナショナルスクールおよび組織を代表する会員組織である。世界80ヶ国以上にあるCOBIS認定校には、165,000人以上の生徒、17,000人以上の教員が在籍している。COBISの最高経営責任者であるColin Bell氏は、BST評議員でもある。

FOBISIAは英国のインターナショナルスクールのアジアにおける地域団体で、加盟校が協力し、ベストプラクティスを共有し、地域イベントや大会の場を提供している。

このほか、BSTは国際教育や連携を促進する組織である日本インターナショナルスクール協議会(JCIS)にも加盟している。

結 語

国際感覚と多文化理解は、BSTの理念とアプローチの中核をなす。国際感覚を身に付けることは、生涯に亘るプロセスであり、学校はその旅の一過程に過ぎないが、BSTでは、生徒が世界のどこにいても、生き生きと活躍できるような異文化理解の能力と気質を身につけることを心から望み、生徒に多文化間の類似点や相違点の理解を深めるさまざまな機会を与えることで、有意義で持続的な相互理解と尊敬の気持ちを育んでいる。

(抄訳：小杉乃里子)